

平成 27 年度 他大学実習アンケートまとめ

参加学生の特徴

参加学生の属性（表 1）をみると、性別では女性が 68%，男性が 37%であり、女性の方がやや多い割合であった。学年では、2 年生が 43%，3 年生が 36%であり、この 2 学年で 80%近くの割合を占めていた。

表 1 参加学生の属性

属性		度数	%
性別	男性	71	31.4
	女性	153	67.7
学年	1 年	18	8
	2 年	97	42.9
	3 年	81	35.8
	4 年	22	9.7
	大学院生	2	0.8
計		226	100

実習で学びたいこと

実習で学びたいと考えていること、期待していることを複数回答で尋ねた（図 2）。結果「食の安全や安心について学びたい」「農作業を経験したい」「農業の技術や技能を学びたい」の回答が多く、食や農業に関心をもって参加している学生が多い傾向がみられた。また、「教室で学べないことを経験したい」「自然を満喫したい」の回答も多く、教室ではなく自然の中で行われる実習自体に興味をもって参加している学生が多いことが考えられた。

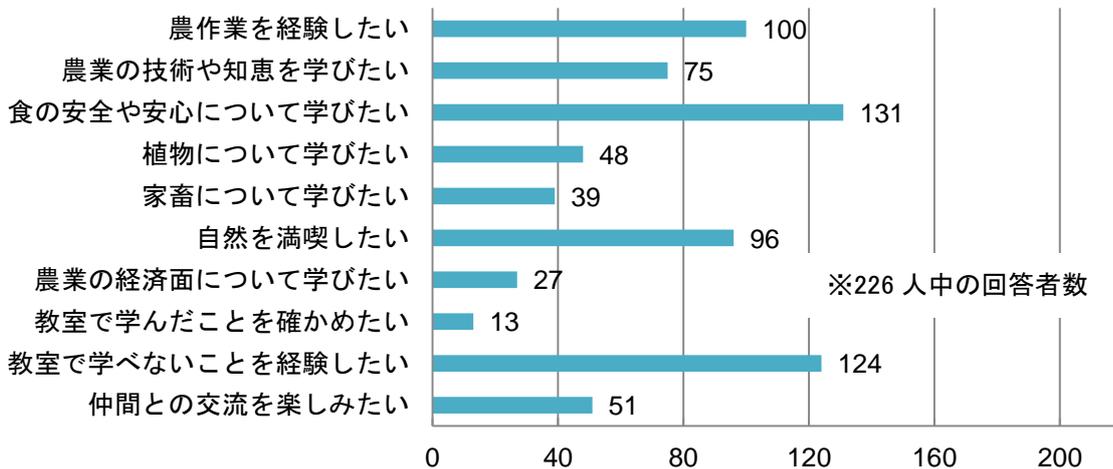


図 1 実習で学びたいこと、期待すること（複数回答、事前調査）

実習参加による学習効果

実習参加による農業や食に対する学びや考えの変化を、それぞれ5段階評価で尋ねた(図2)。結果、「自身の専門分野への興味が増した」を除く6項目で80%以上の学生が「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答しており、農業や食の安全を学ぶ上で効果的な実習であったことが考えられた。また「自身の専門分野への興味が増した」についても70%以上が、「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答しており、専門性を深める上でも効果があったと考えられた。

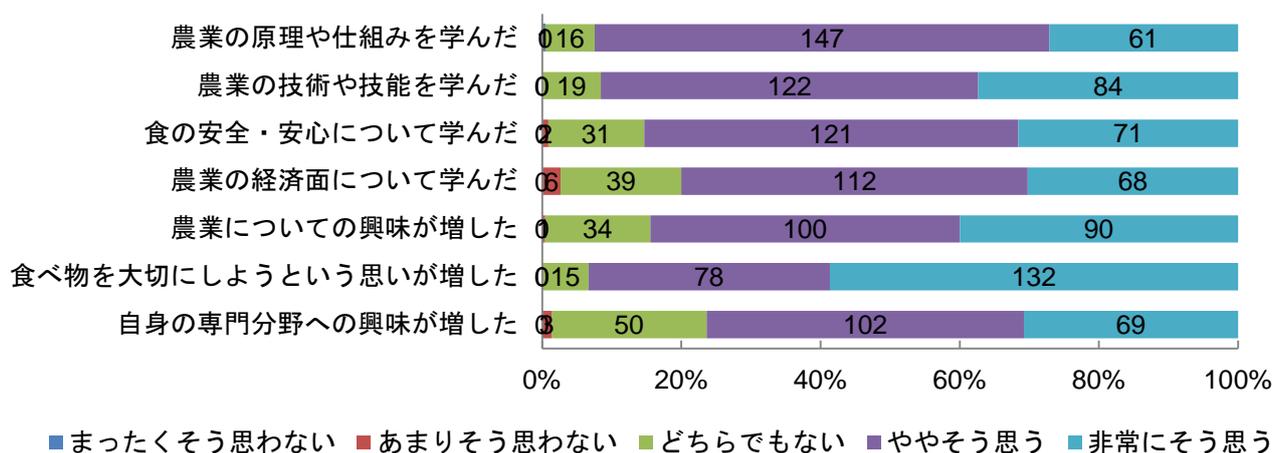


図2 実習参加による学びや考えの変化

実習の評価

実習満足度を4項目で尋ねた(図3)。結果、「実習内容」「総合満足度」については90%程度の学生が「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答していた。また「宿泊施設」についても80%近くが「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答しており、生活も含めた実習満足度は高いことがわかった。さらに「また機会があれば参加したい」についても80%程度が参加したいと回答していた。

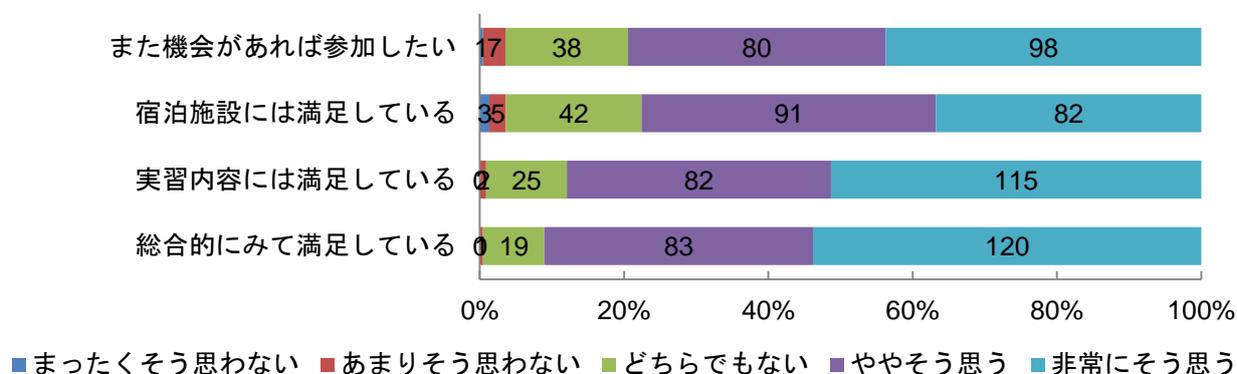


図3 実習の満足度